

総合土木A（農業土木）

〔例題1〕 担い手への農地集積・集約化と農地の確保に関する次の記述A～Dのうちには妥当なものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- A. 日本の農地面積は、平成2（1990）年に約520万haあったが、令和2（2020）年には、約440万haとなった。
- B. 令和2（2020）年の北海道の1農業経営体当たりの経営耕地面積は、都府県平均の約3倍となっている。
- C. 農地中間管理機構（農地バンク）は、地域内に分散・錯綜^{さくそう}する農地を借り受け、まとまった形で担い手へ再配分し、農地の集積・集約化を行っている。
- D. 農地面積に占める担い手への農地集積率は、近年上昇しており、令和元（2019）年度末時点で30%になっている。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. B、D

【正答2】